

ニュースを学ぼう

スクール



ロードレース世界選手権のクラス分け



モトGP
排気量(はいきりょう)1000cc、最高速度350キロ。メーカーが最初から作ったプロトタイプのマシンを使う。メーカーが運営する「ファクトリー」と呼ばれるチームが多く参戦。



モト2
排気量600cc、最高速度290キロ。エンジンは同じメーカーのものを使い、車体はいくつかのメーカーを使用。メーカーから独立したレーシングチームが参戦。



モト3
排気量250cc、最高速度240キロ。ホンダやKTM(オーストリア)などのメーカーからマシンを買った独立したレーシングチームが多数参戦。

(写真はAFP=時事、EPA=時事)

メーカーが一から作り上げるプロトタイプマシンを使うモトGPクラスはマシンの値段は億単位とされ、メーカーの「ファクトリー」と呼ばれるチームが中心。ホンダ、ヤマハ、スズキの日本メーカーのほか、ドゥカティ(イタリア)、アプリリア(イタリア)、KTM(オーストリア)が参戦。モト2(600cc)やモト3(250cc)はメーカーからマシンや車体を買った独立チームが中心で、運営費用を抑えて新人の登竜門のクラスになっている。

強いライバルに感謝

現在の世界選手権は250ccのモト3、600ccのモト2、1000ccのモトGPに分かれ、中上選手はモト2での好成績が認められ、チームLCRホンダからモトGPに参戦します。出身国の総合王者や、軽量級クラスを制した速いライダーたちと最高速度350キロでバトルします。

中上選手は日本GPがあった昨年10月のインタビューで、「同じくらい力を持つ選手は自分を苦しめ、相手が強いほど、自分からそれまでどちがう力が出てくる時があります。強いライバルがいて良かったと思います」と話しました。中上選手には子どものころからの

日本人選手が4年ぶり参戦

日本のほかアメリカ、ヨーロッパなど世界15カ国、19のサーキットを転戦するオートバイのロードレース世界選手権の最高峰モトGPに2018年、4年ぶりの日本人ライダーとして中上貴晶選手(25)が参戦します。「4歳からレースをやっており、世界一のライダーになるのが夢だった」と勝利に向けて闘志を燃やしています。

も誕生しています。

日本のホンダ、ヤマハ、スズキ、カワサキの4メーカーもさまざまなジャンルのレースで優勝マシンを作ってきました。

また、アジアでは仕事用の乗り物としてしょうぶでこわれない日本の小型バイクは人気があり、ベトナムではバイクのことを「ホンダ」と呼ぶほどです。

国内での売れ行き減
しかし、日本国内での売れ行きは

減っているのが現状です。日本自動車工業会によると、オートバイの国内の販売・出荷台数は1982年度の約329万台をピークに、1996年度に約125万台、2006年度は約72万台、2016年度は約37万5千台に。

理由には人口減少や若者がオートバイに乗らなくなったことなどが考えられますが、中高年の人が再び乗りだしたり、軽量級スポーツモデルの人気が高まったりするなど復活のきざしもあります。

ライバルで親友の富沢祥也選手がいりましたが、2010年9月、イタリアのサンマリノGPのレース中の事故でなくなりました。「祥也はとても良いライダーで、感謝しています。サンマリノではいつも祥也の思いを背負っている気持ちで走っています」と話していました。



④2017年10月の日本GPのモト2予選でポールポジションを取った中上貴晶選手(栃木県茂木町)イギリスGPのモト2で優勝した中上貴晶選手の走り(2017年8月27日、イギリス・シルバーストンサーキット)(AFP=時事)

タージマハル廟

タージマハル廟は、17世紀にインドを支配していたムガル帝国第5代皇帝の妻をまつる宗教施設です。インド北部のアグラにあり、イスラム建築を代表する建造物として1983年に世界文化遺産に登録されています。

廟は妻の死の翌年にあたる1632年に建造が始まり、約20年後に完成しました。南北560m、東西303mのしき地に

国際観光旅客税(出国税)

旅行や仕事などで航空機や船を使って日本から外国に出る場合、運賃に千円を上乗せする形で納める税金が「国際観光旅客税(出国税)」です。観光対策を進める財源に使うためとして、政府が2019年1月からの導入を目指しています。

この税は日本人、外国人を問いませんが、2さい未満の子どもと、空港などを経由地として短時間利用する人は対

せん。国は新幹線、航空の輸送インシデントに認め、あやまちを

3時間目

三 芭



2時間目

安 全



昨年12月11日の新幹線「のぞ」で運転を取りあり、JR西日本が発見したと発表の危険があったの運輸安全委員故につながる事大インシデントた。

Q どんな集約で見つかった集約は最大1・3秒は台車がこわれて客が危ない目にもせん。国は新幹線、航空の輸送インシデントに認め、あやまちを